

野外調査では「同じ釜の飯を食う」が大事



自然・環境評価研究部 系統分類研究グループ

山崎 健史

私は新種のクモ類を発見するために、東南アジアの熱帯で調査をしています。国が違えば当然、食文化も違います。その国の美味しい食材に出会うこともあれば、食べるのに躊躇する食材にも出会います。特に現地の方から、おもてなしとして提供されるときは、気が進まなくても、火が通っていて安全そうなら、「おいしい！」と言って食べるようにしています。調査には現地の方の協力が不可欠なので、この一言が意外と重要です。もちろん、おかわりを勧められるリスクも伴います。



ホビロン（ベトナム）。孵化直前のアヒルの卵。ゆで卵と同じ味。頭部もちゃんと発達していますが、グロいので載せないでおきます。



パグガエルの丸焼き（タイ）。卵が詰まった断面にゾワゾワしました。断面の写真は、グロいので載せないでおきます。



カブトガニの卵（タイ）。磯の香りがする固めのゴムという感じの食感。カブトガニは、鋏角類でクモに近い仲間です。



コオロギの揚げ物（タイ）。タイでは食用コオロギが養殖されています。エビせんみみたいな味です。



ゾウムシの幼虫を炒めたもの（タイ）。私は「イモムシ」型の虫が苦手なため、一気に食欲がうせました。